第 24 回大阪大学野田村サテライトセミナー
「ラジオって本当に面白いの？？　ラジオができること“いま”と“これから”」

2015 年 2 月 11 日、大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラムのもと開設された「大阪大学野田村サテライト」にて、「第 24 回大阪大学野田村サテライトセミナー」を開催しました。今回は、講師として現在エフエム岩手の番組制作を中心に各種イベントプロデュースも手掛けておられる澁谷雄介さんを招き、野田村のような小さなコミュニティでラジオ番組を作る意義をテーマにセミナーを行いました。

また、今回も、遠隔教育システムを使用して、本会場と大阪大学吹田キャンパスをつなぎ、同時中継でセミナーを行いました。

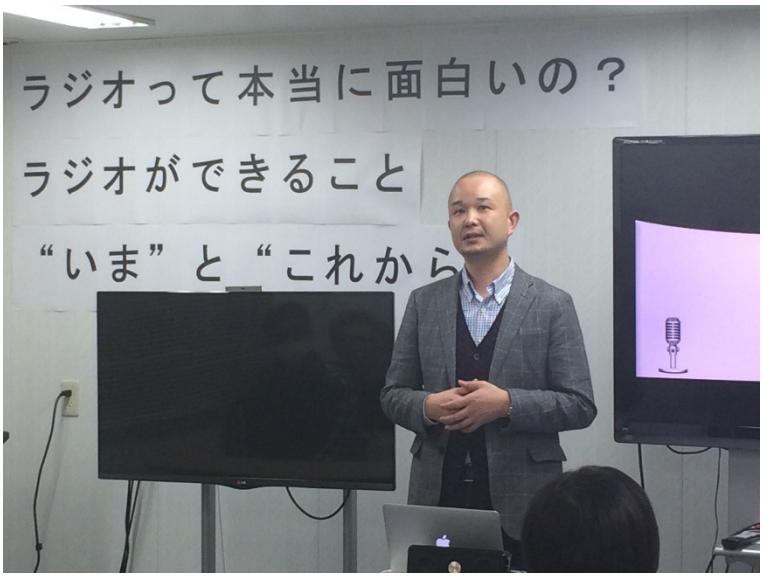
渋谷さんは、まず、ラジオ番組の魅力として３点紹介してくださいました。１点目は、「手軽に作れる、手軽に聞ける」という点です。制作したり、出演したりする際に専門的な資格が必要でなく、聞く方もその分手軽に肩の力を抜いて聞けます。２点目は「他の作業をしながらでも聞ける」という点です。例えば、農作業をしながら BGM のようにラジオを聞くことも多いのではないでしょうか。３点目は「誰かのために、情報発信ができる。一緒に悩みを考えられる」という点です。例えば、ある受験生の悩みにリスナーみんなで一緒に悩みを考えることができ、その際に一体感を得ることができると思います。

発表される澁谷雄介さん

ある調査によると震災直後に知りたかった情報は、家族や知人の安否であったり、水や食料情報であったりしたそうです。そういった情報を得るために半数以上の人が利用したのがラジオでした。災害時に地域の情報を得る際にラジオは必要とされている。では、災

害が起きていないときにコミュニティラジオをどのように作っていけばよいのでしょうか。

澁谷さんは、コミュニティラジオを作る際に注意している３点のポイントを示してくださいました。１点目は「「らしさ」「ならでは」をとことん追求する」という点です。コミュニティラジオは、あくまでもその地域の人に向けてつくられるものなので、その地域の人さえわかればよいと考えると面白くなるそうです。例えば、野田弁だけのラジオドラマを作ってみても面白いかもしれません。2 点目は「全世代向けとターゲットを限定した番組を分けて制作する」という点です。ただ、全世代向けの番組を制作することは難しく、ターゲットを限定した番組のほうが、面白い番組を作りやすいのではないかとのことでした。3 点目は「万が一のときは、情報を得にくい方へ向けた情報提供を」という点です。先ほど、災害時にはラジオが頼られるということを述べましたが、ラジオが情報のライフラインとなることもあります。そういった時に、一番情報を得にくい方に向けて情報を提供するという姿勢は、決して忘れてはいけない姿勢なのではないでしょうか。



発表終了後、大阪大学吹田キャンパスから「ラジオだからこそ、面白く見せることのできるやり方って何かありますか」という質問がありました。この質問に対しての澁谷さんの回答は、ラジオは想像力のメディアなので、ラジオドラマなど想像力を喚起する番組作りをすると面白いかもしれませんとのことでした。

第 24 回大阪大学野田村サテライトセミナーは、活発な議論によって、セミナー中が盛り上がった雰囲気であったのはもちろんのこと、終了後の懇親会でも会場の熱気そのままに貴重な意見交換がなされました。次回セミナーは 3 月 11 日に野田村総合センターに会場を移し、国際シンポジウムを行う予定です。